

飯舘村振興計画審議会 第2回議事要旨

○日 時：令和5年12月1日（金）15：00～16：40

○場 所：飯舘村役場 第一・第二委員会室

○出席者：佐藤 眞弘委員、菅野 新一委員、高橋 祐一委員、西尾 ツネ委員、
佐藤 賢二委員、大黒 太郎委員、万福 裕造委員（オンライン参加）、事務局

○議事録：

| | |
|------------------------------------|--|
| 1. 開会 | |
| 2. あいさつ | |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none">➤ お忙しい中ありがとうございます。➤ 今回は、パブリックコメント等で意見をいただいているので、そのあたりも審議して、村長に答申ということで皆様のご意見を頂いて素晴らしい答申書に作り上げていきたい。➤ 新聞等でも報道あるように、深谷地区にトキが舞い降りてきた。幸運の印かなと思っている。本計画の議論・協議についてもよろしくお願ひしたい。 |
| 3. 議事 | |
| 1) 第6次総合振興計画の見直し概要について（再説明） | |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">➤ （事務局より計画の見直し概要について再度説明）➤ 質問等なし。 |
| 2) 後期計画に対する意見及びその回答について | |
| 3) 答申書（案）について | |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">➤ まず、前回の審議会で出た意見とその回答について、資料②にまとめさせていただいた。資料④の答申書（案）と並べて確認していきたい。➤ 1番は見直しの方法について、前期計画の反省に立った見直しをすべきではというご意見。これに対しては、前期計画の反省点として、計画の方向性に関するものや踏まえるべき姿勢について挙げられたため、それらを踏まえながら村民の皆さんにとっても行政にとってもわかりやすい計画に変更することを主たる目的として見直しを実施した。一方で見直しの |

中で前期計画に記載の事業のうち約8割の事業が着手されているということを確認した。今回は、大枠をピラミッド構造として見直したという点で理解いただき、また8割の事業は実施している点をご確認いただきたい。

- 続いて5番の、各種事業は実施計画に記載するとなると村民から事業が見えなくなりわくわく感がなくなる、というご意見。

こちらに関しては前回お答えした通り、計画から事業を消した訳ではなく、計画をピラミッド構造に構成しなおし、その中の実施計画の部分でうたっていく、という回答である。

- 続いて9番の人口目標について。目標の数値が高いのではないかというご意見。
- こちらは計画素案の最初にも記載しているが、現在医療・介護・福祉の予算だけでも約35億円の費用が掛かっている。今後さらに高齢化が進む中で、医療サービスを利用する機会の多い高齢世代を働き世代が支えるのが困難になってくるので、少しでも人口の減少を抑えたい、という視点で設定をしている、という回答。また、なりわい人口に関しては、今後の事業と照らし合わせて積み上げた数字であるため無理な数字ではないということをご理解いただきたい。
- そして、これらの意見が答申書にどのように反映されているかという点について、資料④の答申書（案）をご覧ください。
- 今の「成果を踏まえて見直しすべき」というご意見や実施計画についてのご意見などについては、答申書の1番「飯舘村第6次総合振興計画は、前期計画の村民の理念を引き継いだものとなっているものの、計画の構成を整え、人口増加策等の新たな観点を加えたため、村民には引き続き丁寧な説明をおこなうこと。」という文言で整理させていただいた。
- このような形で答申書に盛り込んでいる。
- 次に、まず4番の計画の構成については、ご指摘のとおりということでお答えしている。

- また、6番の村の将来像について、村民の方が村の方向性をイメージできるのかという意見に対しては、7次総の際に改

| | |
|--|---|
| | <p>めて住民の皆様の声を聞きながら考えていきたい、という回答になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ つづいて7番、村の将来像について、村の目標であるため、村政の言葉とはき違えないようにすべきというご意見については、ご指摘のとおりということで認識している。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ➤ また、人口目標について、「良い施策をするから人が集まる」という意識づけをしていただきたい、というご意見に関しては、事業実施や計画の推進に当たっては、注意しながら進めていきたいと思う。 ➤ 続いて、8番の村の将来像が分かりづらい、また、長く使ってきた「までい」という言葉が計画の中に少しでも入っているとよいのでは、というご意見。 ➤ こちらに関しては、「までい」という言葉を完全になくしたわけではなく、そのコンセプトは施策の中に入っているという回答。また、将来像については、先ほどもあったように、7次総策定の際には改めて公募や選定委員会等、住民の皆様のご意見を反映できるように段取りしながら進めていきたいという回答。 ➤ また、13番から16番、そして18番にあるように、子育て支援や村の住宅、農業、ICT等各種事業についてご意見を頂いた。 ➤ これらに関しては、施策の中で読み込めるものになっているものの、一方で事業実施の際には丁寧に実施していく必要があると認識した。そのため、その旨答申書に盛り込ませてもらった。 ➤ 続いて、12番の、計画書の文字が多く分かりづらいのでできるだけ数値化してほしい、難しい場合は評価結果を分かりやすく数値等で示してほしい、というご意見について ➤ こちらは、今回新たに「重要業績評価指標」等を設け、達成状況を数値で確認できるようにしたこと、また評価の際にはABCや○△等で分かりやすく示していく、ということで回答した。 ➤ また、移住ツアーの実績について、どのような状況になっているかという質問。 ➤ 村の状況として、延べ30名程度が参加させていただいているということ、また、体験型のものを中心に少人数制で実施しているという状況で、こちらに関しても、事業実施の際には村 |

民の皆様が関われるよう進めていきたい。

- 一通りこれらの意見が出たところだが、改めて資料④答申書（案）をご覧いただきたい。
- 1番については、「飯舘村第6次総合振興計画後期計画は、前期計画の村民の理念を引き継いだものとなっているものの、計画の構成を整え、人口増加策等の新たな観点を加えたため、村民には引き続き丁寧な説明をおこなうこと」というもので、前回の委員からのご意見を踏まえたものとなっている。
- また、2番については、委員からいただいた評価方法についてのご意見を主に、「計画については各種事業の成果を確認しながら、施策の達成状況を毎年度評価し、施策の推進に努めること。また、評価の結果については、数値等を用いて分かりやすく示した上で、公表をすること。」として整理した。
- 3番については、委員からの意見を受けて、事業実施にあたってはできるだけ様々な知見を取り入れたり住民の方が参加しやすい形で実施したいということから、「計画の推進にあたっては、村民はもちろんのこと「なりわい人口」「関係人口」などを構成する全ての人々が「ふるさとの担い手」となって各種の施策・事業に参画できるように努めること。」として整理した。
- また、資料3-1、3-2として、10月に5回実施した住民懇談会のアンケートでの6次総に対する意見及び回答案と、11月7日から2週間実施したパブリックコメントでの意見及び回答案を添付しており、そのような形で回答したいと思っている。
- いくつかピックアップして紹介すると、まず資料3-1の中では、例えば1番の「今回のやり方では閲覧できる方が限られるため、資料を全戸配布してほしい」という意見。これに対しては、すべての対象者が閲覧可能な方法をとったということをお答えしている。
- また、パブリックコメントの期間が短いという意見についても、他の自治体を参考にしながら期間を決めています、というような回答となっている。
- また、6番目の計画内容についてのご意見については、急いでキャッチフレーズを変えただけで本来の計画の見直しにはなっていないのではないかというものである。
- こちらについては計画素案8ページにもあるような前期計画

| | |
|----|--|
| | <p>の見直しで明らかになった点や、昨年度から実施している各課からのヒアリング内容を踏まえて作成しており、急いで作ったものではなく、また現在の村政と連動したものになっている、という回答内容である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ こうした意見からもやはり村民の皆様には計画の丁寧な説明が必要ととらえ、答申書の1番の項目に反映した形である。 ➤ また、資料3-2については、10月の住民懇談会の際に実施した住民アンケートの中での6次総に関する意見とその回答についてまとめたものである。 ➤ たとえば、3番目のご意見については、人口増加のために研修や移住希望者への意識調査、また帰村意向の調査をしているかどうかという質問である。 ➤ それに対し、まず研修については、すべての施策において人口増加策の観点を持つという考えのもと、各課それぞれ事業レベルで先進事例のある自治体へ研修をおこなっているという回答。また、移住者希望者への意識調査に関しては、移住相談へ来た方や移住ツアーに参加した方にアンケートを実施したり、県などのアンケート結果も参考に事業を実施している、という回答。また、帰村意向の調査については、村は今「戻る・戻らない」から「選んで住みなおす」段階にきていると認識しており、震災当時の住所の有無に関わらず、避難者を含めた村外に住むすべての方に「村に住みたい」と思ってもらえる村づくりを推進しているため、帰村についての意識調査は実施していないという回答である。 ➤ また、7番は、「村に移住してくる人は将来にわたって村に住み続ける人なのか」というご意見であり、これに関しては、村では5年以上住む意思のある方に各種補助制度をご案内しているという回答。こういった移住関係の対応に関しても、計画の中の個別施策で住宅の確保やコミュニティ形成についてうたっているので、施策としてカバーできていると認識している。 ➤ ボリュームが多くなってしまったが、資料2～3-2についての説明は以上。質問・ご意見等あればお願いしたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 資料3-2の3番帰村の意向調査のところで、住みなおしの段階にきているから調査しないという話だったが、住基人口の目標の中には村外避難者の数も入るので、避難者が戻っても戻らなくてもこの数は変わらないと思う。疑問なのは、村外 |

| | |
|-----|---|
| | <p>に避難している方が村に戻ってくるということは、すごく重要な意味を持つことだと思うが、帰村してもしなくてもこの数字が変わらないということであまり重要さが伝わらなくなっていると思う。</p> <p>➤ 毎年外から若い世代を15人呼び込むことを施策にしているので、村外の人に焦点があたっているように見え、村の戻らない方・戻れない方への呼びかけが弱いように感じる。呼びかけの対象として最も多いのは村の高齢者や、あるいは戻りたくても戻れない方なのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>➤ 前回の審議会の際に村外に避難している方が村に通いたくなるような施策も必要という話があったが、今いる村民の方を大切にすべきというお話なのかなと理解した。</p> <p>➤ おっしゃる通りで、なかなか住基人口のような数字だけではとらえきれない部分があり分かりづらいということだと思う。この人口増加策についての詳細な推移について、具体的にうたい切れていない部分があるので、7次総策定の際にはそういった視点も踏まえて皆さんがより共感できるようなものにしたい。</p> |
| 委員 | <p>➤ 前回の審議会の際にも移住ツアーの話が出たが、外の方へ呼びかけてやっているもので、避難している村民の方へとどくものではない。そういった方々が「自分たちに声がかかけられている」ということを実感できるような、そんな村の独自性に注目した、飯館に戻りたいんだけど戻れない人のためのツアーのようなものも必要なのではないか。予算の確保においてもそういった独自性がないと難しい部分もあるのではないか。そういう意味でも村の独自性、特殊性みたいなものをもっと強調すべきではないか。</p> <p>➤ 特に長泥は他の行政区に比べかなり遅れて一部が避難解除された状況の中、畑で作物を作っても自由に食べたり売ったりできないという状況であり、この見直しにおいてまだ村はそういう状況にあるということを強調した計画にしないと、国からお金ももらえないし、長泥の方たちも、「自分たちも目をかけてもらっている」という気持ちにならないのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>➤ 長泥地区については、今年の5月に避難解除がされたが一部解除されていないエリアもある。そういったところに関して、「長泥将来構想検討委員会」など、各種会議を実施している。地区の方へは、後期計画の本体でうたっていない部分に関し</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>ては実施計画で丁寧に説明していく必要があると感じている。長泥は環境再生事業など実施していることもあり、そういった部分に関しても各種会議等で丁寧に説明していきたい。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 誰とやるのか、という問題が見えなくなっていると思う。人口目標と共通目標をたてているのは分かる。しかし、高齢者の問題など読み込めるといわれればそれまでだが高齢者の人と一緒にやる、区長と一緒にやる、地域おこし協力隊等と一緒にやるなど具体的なものがないので、方向性としてあった方がよいのではないかと思う。誰と一緒にやるのか、誰に声をかけているのかを明確にすべき。 ➤ 先ほども帰村意向の話があったが、帰村の意識調査をして一緒に村づくりをやりようという村民の思いなのだと思う。意向調査をしないというと、切り捨てではないが、村民より外から来てくれる人が大事ですよ、というふうに見えてしまう。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 誰を対象にするのかというのはまさしく基本計画でうたっているが、「ふるさとの担い手」つまり村に関わるすべての人が対象であるというところをご理解いただきたい。そのうえで、各種事業を実施していく際は、それぞれに対象がわかれてくるという認識。たとえば、起業したい人に対して農業のことをお知らせしても対象が違うと思うし、起業したい人に対してはなりわい支援のための事業をご案内しなければならないというところで、具体的な対象者については実施計画や各種事業でうたっていくということで、他の自治体もこういう形で整理しているのでご理解いただきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 前回の議事録を見ていて、委員からの「いい施策があるから人口が増える」という意見について、自分もその通りだなと思った。計画素案を見て、具体的にどういうふうに私たちがやっていけばいいか分からなかった。例えば人口目標の設定をしているが、その裏にある課題があると思う。税収の面から保険税や介護保険税が高く、県でもワーストであるとか、子どもたちの肥満が1位であるとか、そういった課題に対して、高齢者だったら認知症予防とか食生活の改善など、そういうものを具体的に示していったら村民の皆さんに問いかけていけば、自分たちも参画できるんだ、と感じると思う。 ➤ また、村からお膳立てされているものに対して乗っかっていくのではなく、村民が自ら手を挙げて「私たちが中心になっ |

| | |
|-----|--|
| | <p>てやっていきましょう」という気持ちになる施策が必要だと思う。</p> <p>➤ それから、震災前、農業のプロの方が相談員として村に来て、農業をやる中で分からないことはその方に相談したり、色々助けてもらったという経過がある。農作物のことだけでなく経営のことや税金のことなども教えていただけるような、そういうプロの方が村に来てくれるのもいいのではないかなと思った。</p> |
| 事務局 | <p>➤ すごく大事なお話だと思う。具体的な話がないと、計画に対していい悪いと言えないのかなと。住民の方も参画しづらいということなのかなと思う。基本計画としてはそういったものを踏まえながらも漠然としてものになっているが、今おっしゃられたような部分については、各種事業の中で議論され、予算化されていく部分である。この基本計画については、そういった各種事業実施の上での方向性を示すものである。そのため前回、実施計画をお示しし、具体的なものについては実施計画に記載されているということをお示したところ。なので、今回の答申にもあるように、そういった、基本構想、基本計画、実施計画といったところを一つ一つ丁寧に説明していきたいと思う。今おっしゃっていただいた各種事業については、改めて担当課とも共有させていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>➤ やはり飯舘村が目標を見いだせないのは全村避難をしているからだと思う。その中で全村避難を総括し、評価することで、より問題点が見えてくると思う。具体的な項目を見ていくと、大体が全村避難が影響しているようなので、評価をお願いしたい。</p> |
| 事務局 | <p>➤ おっしゃる通りで、現在復興計画と総合振興計画が並行している状況。復興計画も第6次総合振興計画も令和7年度までの期間のため、今後これまでの復興や政策のあり方だったり将来の見方を見直ししながら、7次総に繋げていくことになると思う。ぜひ検討させていただくとともに、その際にはご協力をお願いしたい。</p> |
| 委員 | <p>➤ 今現在、避難生活の影響なのか、健康体操ひとつとってもいろんなところで実施している。よその地域ではこんなにたくさんできないと思う。徐々に一つにまとめていくことを検討してほしい。</p> <p>➤ あとは、計画を立てたのであれば、事業の相乗効果を狙って</p> |

| | |
|-----|---|
| | いくことも検討してほしい。例えば、凍み餅や凍み大根づくりについて、以前は村の名物だと思っていたが、いつのまにか他の町村の名物としてものすごく PR されている。村の名物はどこに行ってしまったのかと思う事がある。そのあたりもぜひ継続して行ってほしいと思う。 |
| 事務局 | ➤ 似たような事業が乱立していてそれぞれの目的が見えていないということと受け取った。 |
| 委員 | ➤ 移住のツアーも村だけでなくいろんなところでやっている印象。 |
| 事務局 | ➤ それぞれの事業について、村としての統一性や目標が見えていない、村の将来像やそれぞれの事業の目的が明確に伝わっていないということかと思う。そのあたりは事業ベースで、担当とも話し合い、類似の事業について掌握し、可能な範囲で調整できるようにしたい。お互いがコミュニケーションをとり情報を共有できれば、より住民の人にとってよい事業が展開できるのかなと思う。 |
| 委員 | ➤ 将来的にはみんなで同じ方向を向いてやっていければと思う。 |
| 事務局 | ➤ そのあたりは事業評価もしながら詰めていきたい。 |
| 委員 | <p>➤ 今相乗効果という話があったが、先日地域おこし協力隊や色々な団体の方と話をしている、お互い何をやっているのか分からず、チラシ等でお互いの活動を知ることがあると言っていた。バラバラだがそれぞれ頑張っている。そこをお互いがどのような活動をしているか分かっていたら、相乗効果が生まれる気がする。</p> <p>➤ 小さな村で、一つのビルに色々な団体が入っていて、最上階にビアホールがあって、定期的集まって情報交換し相乗効果を狙っているという事例を見たことがある。現在村は避難もあり、一概に統合するのがよいというわけではないが、お互いに情報共有しながら長い目で何かを育てていくようなことは飯館はあまりできていないのではと思う。</p> |
| 事務局 | ➤ ご指摘のとおりかと思う。事業ベースで見直ししていくものの、そういったご指摘をいただきながら明確な目的に向かって丁寧に説明していきたい。 |
| 委員 | ➤ 先ほどから出ている内容について、やはり村を見ている皆様から出ているご意見だなと思う。総合計画は方向性が基本な |

| | |
|------|---|
| | <p>ので、あまり詳細を書きすぎない、書けないということは百も承知の上での皆様のご指摘かなと思うし私もその通りと思う。事務局の方で7次総に向けてかなり見直しします、組み込みますという話をいただいているので希望の見えるところではあるが、そろそろ足元を見るためにも「実態数」の把握をしてはどうか。例えば、現在長泥地区では長泥将来構想検討委員会などがあると思うが、その中で、住民の方にリアルに帰る意思があるかどうか、そしてその数はどれくらいいるのか、村で実数を把握しておく必要があると思う。そうでないと、7次総策定の際に間に合わなくなりかねない。事務局でも、1,000人以下で成り立っているミニマムな自治体のことも見ないといけない。農業施策もそうだが今までは住民が6,000人いたから2,200haが守れていたわけで、現在1,500人で2,200ha守るのはまずもって無理なので、たとえば農業従事者が少ないのでこのエリアは鳥獣害対策をやってそこから先は条件不利地なので営農はやめましょう、というような、本当に背に腹は代えられない議論をした方が行政の把握も楽だと思う。今回の計画ではなく、7次総に向けて実数把握をして、そのうえで知見のある方や地元の方の意見を取りいれながらやっていただいて、その結果村に住んだら楽しそうだな、というような雰囲気を感じられれば、おのずと人は集まってくるのかなと、人が増えなくても持続できるようになるのかなと思う。</p> |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 7次総に向けて、大きな課題をいただいたと思っている。委員の皆様から具体的な部分についてもご指摘ありましたので、7次総に向けていい計画が作れるよう勉強していきたい。引き続きよろしくおねがいしたい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 資料④の答申書（案）について最終確認したい。こちらは村からの諮問に対し、前回と本日の審議会で慎重に審議した結果、計画素案については、これまで各種意見が出たものの修正すべき点は無いが、審議会で出た3つの意見を付して答申します、という内容と認識している。3つの意見というのは、前回審議会で出して頂いた意見をまとめたもので、資料4に記載のとおりとなる。 ➤ 内容について、こちらでよろしいか。 |
| 委員一同 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ よい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ それでは、この内容で確定する。 |

| 4. その他 | |
|--------|--|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 計画素案の変更がないこと、また答申書の内容が確定したことから、このあと会議終了後に会長から村長へ答申書を渡すことでよいか。 |
| 委員一同 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ よい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ ではこのあと村長への答申をおこなうこととする。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ その他、事務局より、本日の議事録については完成次第皆様へ送付する。また、ホームページでも議事録を公開予定である。改めて皆様にはお知らせする。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 議事録とパブリックコメント、住民アンケートの結果は同時に公開するのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 同時ではなく、それぞれ集約できしだい公開する。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 最後に一言お願いがある。重たい計画を作っているが、審議の時間が短く意見反映が十分にできないので、7次総に向かつては、もう少し時間の余裕をもっていただきたい。他の自治体では半年かけてやっているところもある。これでは、やった体を出しているだけと言われても反論できない。委員の方々に責任を押し付けているようにも見えかねないので、できれば7次総の際には時間に余裕のある運営をお願いしたい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 承知した。パブリックコメント等は他の自治体を参考に期間を設定したというのもあったが、今のようなご意見もあったので、7次総に向かつては時間に余裕をもった計画づくりとしていきたい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ では最後に、会長よりあいさつをお願いしたい。 |
| 会長 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 本日は貴重なご意見をありがとうございました。これから村長へ答申をお渡しして参りたい。最終的には議会の議決承認ということになるが、皆さまにおかれましてはお忙しいところお時間いただきありがとうございました。 |
| 5. 閉会 | |